

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

6

地域に対話を
つくり出す
住民主体とは

生活支援 コーディネーター

志免町社会福祉協議会※

木村 理絵（きむら りえ） 宿利 幸央（しゅくり とまたか）

※社会福祉協議会とは、地域の様々な福祉課題を地域の皆さんと一緒に考え、保健・医療・福祉などの関係者、行政機関と協力をしながら、「誰もがいつまでも住み慣れたまちで安心して暮らせるまちづくり」をめざす公共性・公益性の高い民間の非営利団体です。

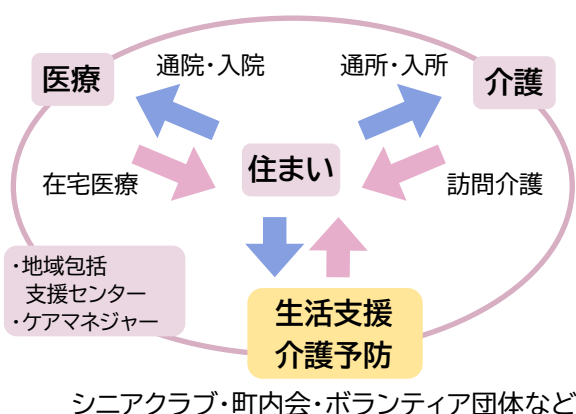


地域包括ケアシステムと 生活支援コーディネーターの役割

地域包括ケアシステムとは、介護が必要な状態になっても高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくことができる体制をいいます。そのために住まい・医療・介護・地域などの各資源が連携し、それぞれの強みを活かしながら、誰もが安心して生活できる体制を目指しています。

（※詳しくは下記のイメージ図を参照ください）

地域包括ケアシステムのイメージ



※厚生労働省の資料をもとにまちづくり支援室にて作成

地域包括ケアシステムの中で、主に「生活支援」と「介護予防」に関する体制づくりを担うのが生活支援コーディネーターです。現在志免町では、志免町社会福祉協議会(以下、社協)が担当しています。

生活支援とは、住民同士の助け合いで日常生活の中でのちょっとした困りごとの解決を目指すものです。介護予防とは、介護が必要な状態になることを未然に防ぐことで、活躍の場や居場所・生きがいを見つけて参加することも活動の一つといえます。



新たな活動だけでなく、 伝えたい既存の活動の大切さ

志免町では、見守り活動や居場所活動については現在すべての町内会で何かしらの活動がある状態となりました。しかしちょっとした困りごとの解消に向けた生活支援の活動はまだ取り組みが少ない状況です。

そこで現在は、生活支援に取り組む前に、課題やニーズを見つけるための実態調査を町内会へ投げかけています。また調査を踏まえて、地域の人と一緒に必要な活動を考えていく話し合いの場づくりに取



町内会での話し合いの様子

り組むなど、今までより踏み込んだ新しい働きかけをしています。

このように、生活支援コーディネーターの役割の中には社会資源の把握や、新しいサービスの創設がありますが、このような動きに対して、既存の活動者の中には長年の活動を否定されたように感じたり、今までの活動が支援されないと感じたりした声がありました。

町内会における既存の見守り活動や居場所活動、ボランティアグループ等の活動については、改めて大切な取り組みであると伝えたいです。コーディネーターとしては、長く続く活動への感謝と敬意を伝えつつ、新たに必要な支援に向けて取り組めるような声かけをしていきたいと思っています。

地域福祉活動の 継続に向けた働きかけ

ただ、今後の地域福祉活動の継続を考えたときに、活動者の高齢化問題は避けられません。まずは新しい世代とつながって、少数でも担い手候補を発掘していくことが大事です。

地域福祉活動の特徴として、参加者をもてなすことに力を入れる傾向があります。しかし社会参加という観点では、「お客様」と「もてなす側」という関係よりも参加者も含めてみんなで運営していくほうが、参加者の主体性形成や運営側の負担軽減につながります。

このように継続に向けた大事な視点を伝えること

も、コーディネーターとしての大切な役割だと思っています。今までの踏襲になりがちですが「みんなで意識を変えていく」「活動を見直していく」といったことも必要だと思います。

生活支援コーディネーターとして 求められる力

社協には、もともと「住民主体の原則」があります。住民自らが問題意識を持ち、モチベーションを上げながら活動することが大切だという考え方ですが、このような考え方を必要な時に、適切なタイミングで伝えることもコーディネーターに必要な力の一つだと思っています。

また役割の一つである社会資源の把握として、今までよりも枠を広げて情報を収集しています。困っている人が必要な支援につながるためには、情報収集やマッチングのための知識はもちろん、普段のコミュニケーションの中から、その先のつながりをつくりだすことを意識し、知識や人脈を広げる必要性を感じます。それをコーディネーターだけで持っていて意味がないので、見える化を頑張っているところです。

地域で困っている人がいたら、その人を支える仕組みを地域で考えることが求められています。これまで町内会支援に関わってきた社協の強みを、生活支援コーディネーターとして発揮していこうと思います。

取材を終えて

長年の町内会支援で培った強みを活かし、今後を見据えながら、地域の中に一歩踏み込み働きかけをしていく生活支援コーディネーターの役割を知ることができました。

また、普段の情報収集や発信からつながりを作り上げていく意識を持つことや、活動者の主体性を大事にする考え方に、ボランティアコーディネーターとして共感した取材となりました。

